

集団や個別にかかわらず、 結果を出して生徒や保護者に 喜んでもらえる塾は 今後も成長できる

誉田進学塾／千葉県千葉市

清水貫 代表

創業して36年になる誉田進学塾。以来、塾の王道とも言える集団指導を行い、生徒たちを次々と難関校に送り出している。その集団指導の長所、同塾独自の授業、ICT、大学入試改革への対応について、清水貫代表に話を聞いた。

前年比116％～117％
の売上げ見込み

「新規入塾者だけの数字はまだよく見ていないのはつきりは言えませんが

が、欲を言えばもう少し増えて欲しいというのが私の実感です」と、今年の入塾状況について清水代表は語る。

売上げペースで見ると、2015年2月決算期は前年比116％～117％になる見込みとのこと。2014年2月期昨年は前年比107％台だったという。

「前年比110～115％を目指して塾運営のすべてを計画していますから、昨年110％に届かなかった分を予定通り今年挽回して戻したということになります。しかし新規開校分を含んでいますので、もう少し伸びて欲しいというのが正直な気持ちです」。

生徒数約1500名のうち、小学生400名、中学生600名、高校生500名で、中学生が最も多い。

「中学生は、小学生のうちに入塾してくる子どもが6～7割を占め、3割

程度が中学生になってから入塾してきます」。

つまり、中学生の大半は小学生からの持ち上がりで占めているということだ。いかに地域から厚い信頼を寄せられている塾であるかがうかがえる。

また、定期的にチラシを出す以外は、特に集客活動は行っていないとのこと。ほとんどが口コミや紹介での申し込みだ。

独自の「対話参加型授業」 は集団指導だからできる

創業以来集団指導を行っている誉田進学塾は、講義型の授業ではなく、対話参加型授業を行っているのが



集団指導を行う教室

大きな特色。講師が講義や説明だけをするのではなく、生徒自身に自ら考えさせ、自ら解決しようという態度を身につけさせることがその大きな狙いでもある。

「例えば講師が数学の問題を途中で解いて見せ、『この先どうする?』と聞くと、我先にと生徒たちが解き方を説明し始めます。中には先に答えを言ってしまう生徒もいますが、生徒たちがどんな返答をするのかまったく予想がつかない中で個々の生徒に対応していくのがうちの授業なのです」と、清水代表は笑いながら語る。

塾内ではもちろん講師対象の模擬授業研修を行っているが、その研修には生徒役を務めるベテラン講師も参加する。

「例えば新人講師が『前の授業ではどこまで学びましたか?』と言ってある生徒を当てると、『この間は休んだのでわかりません』と生徒役の講師が



取材に訪れたおゆみ野校には「誉田進学塾ism」「誉田進学塾premium」「東進衛星予備校」の3つのブランドが入っている。

清水貴代表



想定外のことを答えたり、生徒がやりそうなあらゆる反応をしてみせたりします。最初は新人講師は戸惑いますが、そんな場数を踏むことで鍛えられ、一人ひとりの生徒をよく理解し、対応できるようになっていきます。要するに、うちで言う講師力が身についてくるのです。

講義型授業がクラシックの演奏だとすると、同塾のような対話参加型授業は「ジャズの即興演奏」のように清水代表は言う。そして生徒同士で切磋琢磨し、刺激を与え合うには集団指導の方が適しているとも語る。

「むろん毎回の授業ごとにゴールを設定し、そのためのシナリオも作っていますが、講師のアドリブも相当多くなります。うちはそんな授業を理想としています。そのような授業は個別指導ではできません。最低でも

生徒が10人いないとまったく盛り上がりえないし、生徒同士がインスパイアし合うこともできないと思います」。

さぞかし高度なスキルが必要かと思われるが「スキル以前に、講師の熱意。こそが何よりも重要です」ときっぱり言い切る。

志望校合格や成績アップなど、結果を出している塾は強い

かと言って、清水代表は決して個別指導を否定しているわけではない。それどころか「個別指導でしかできない指導に取り組み、確実に成績を上げたり、志望校に合格させている塾は非常に強いと思いますね」とも語っている。



開放的な職員室



東進衛星予備校の教室

「ただ、残念ながららかつて多くの個別指導塾は、集客のためだけに個別という看板を出し、収益を上げることばかりを考えて、お客様の満足を満たすことを考えなかったのではないのでしょうか。短期的にはうまくいっても永続するには疑問を感じます。一方集団指導塾も、合格実績のみを追いかけて看板になる少数の生徒だけを大切に、不満を感じた層の一人ひとりの個別のフォローができていなかったのではないのでしょうか。どちらの塾も、それが仇となって自分のところに返ってきているのが今の状況なのかもしれないですね」。

昨今話題になっているICT教育にはさほど関心がないという。

「ICTはあくまで道具、ツールに過ぎません。そういったハウツーのノウハウやツールの本質はあまり変わらないうちで思っている、今のところ積極

「この方がいいとかあの方がいいという議論を越えた、もつと向こう側にある。伸ばすべき力をどう伸ばすか」という視点で考えたいのです。一番根っこにある「子どもを大人にするために、このように伸ばす」という教育の本質は時代によって大きく変わるものではありません。そこから外れない限りは、様々なアプローチを探って検討してみたいと思います」。

基本データ	
本部所在地	千葉県千葉市
創業	1978年10月
設立	1990年5月
指導対象	小4~高3・高卒
指導形態	集団指導
教場数	拠点11 教室15校 (中学受験2、高校受験7、東進衛星予備校6)
生徒数	約1,500名 (小中生約1,000名、高校生約500名)